２．モデル自治体・地区での取組

６つのモデル地区での取組の主な担当者、実施内容、スケジュールについて大まかに説明する。モデル地区は能代市梅内地区、湯沢市院内地区、鹿角市平元地区、由利本荘市石沢地区、にかほ市上浜地区、三種町鹿渡地区である。この内、能代市、三種町を委託機関である一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所所長の藤山浩氏が、鹿角市を同研究所特別研究員の野口拓郎氏が担当し、湯沢市は委託機関の連携協力者である若菜千穂氏（NPO 法人いわて地域づくり支援センター 常務理事）が、由利本荘市とにかほ市は同じく連携協力者である太田陽之氏（株式会社Ｐサポ東北 調査リーダー）が担当した。

モデル地区では基本的に人口分析・推計、現地調査・ヒアリング、ワークショップ（１回目)、ワークショップ（２回目)、市町報告会というスケジュールで取組を行った。人口分析・推計は住民基本台帳の数値を基に人口動態に関わるコーホート分析、人口予測推計、人口の安定化に向けた推計等を自治体単位、モデル地区単位（全地区単位）で行った。現地調査・ヒアリングでは市役所および町役場の担当者や地区住民の代表から地区の概要、住民活動等の取組内容を把握し、その後現地調査を行った。ワークショップ（１回目）では地域の人口安定化ワークショップとして地区の年代別人口増減の要因を探り、人口安定化に必要な取組や目標を設定した。ワークショップ（２回目）では 30 代女性が定住するとしたらというテーマで天気図ワークショップを行った。これは前半を課題編として地域の強みを高気圧、弱みを低気圧、組織や団体の関係性が強ければ温暖前線、弱ければ寒冷前線で表現し、後半の解決編では弱みを補うための検討や移住促進、将来はこういう地域にしたいという思いを具体的に描くものである。こうした取組内容を周知するため各市町全域を対象とした市町報告会を開催し、参加住民の代表者に発表いただいた。モデル地区に関わる実施スケジュールを一覧にしたのが下表である。

次頁より取組内容についてモデル地区ごとに詳細を記載する。

表　モデル地区における実施スケジュール

日にち	対象地	内容	日にち	対象地	内容
2020年7月15日	三種町	現地調査・ヒアリング	2020年11月1日	湯沢市	ワークショップ(2回目)
2020年7月17日	能代市	現地調査・ヒアリング	2020年11月5日	にかほ市	ワークショップ(2回目)
2020年7月21日	由利本荘市	現地調査・ヒアリング	2020年11月11日	能代市	ワークショップ(2回目)
2020年7月22日	にかほ市	現地調査・ヒアリング	2020年11月12日	三種町	ワークショップ(2回目)
2020年7月27日	湯沢市	現地調査・ヒアリング	2020年11月13日	由利本荘市	ワークショップ(2回目)
2020年7月28日	鹿角市	現地調査・ヒアリング	2020年11月27日	鹿角市	ワークショップ(2回目)
2020年9月3日	三種町	ワークショップ(1回目)	2020年12月12日	三種町	報告会
2020年9月7日	能代市	ワークショップ(1回目)	2020年12月13日	にかほ市	報告会
2020年9月13日	湯沢市	ワークショップ(1回目)	2020年12月20日	鹿角市	報告会
2020年9月17日	にかほ市	ワークショップ(1回目)	2021年1月30日	由利本荘市	報告会
2020年9月18日	由利本荘市	ワークショップ(1回目)	2021年3月6日	能代市	報告会
2020年10月9日	鹿角市	ワークショップ(1回目)	2021年3月7日	湯沢市	報告会

（1）能代市・梅内地区

① 取組内容と実施スケジュール

モデル自治体・地区では人口分析・推計に加えて現地調査・ヒアリング、2 回のワークショップ、市町報告会を実施した。以下が実施概要である。

■現地調査・ヒアリング

・市役所担当者へのヒアリング

日時　2020 年 7 月 17 日（金）10:00－12:00
場所　能代市役所二ツ井町庁舎
対象　市民活力推進課 2 名、二ツ井地域局 総務企画課 地域振興室 2 名
　　総合政策課 人口政策・移住定住推進室 2 名

・対象地区住民代表へのヒアリングおよび現地調査

日時　2020 年 7 月 17 日（金）13:00－17:00
場所　梅内聚落会館および梅内地区各所
対象　梅内聚落区長等役員 5 名、二ツ井宝の森林プロジェクト事務局 1 名
　　梅内山菜倶楽部会長 1 名

■ワークショップ（1 回目）

日時　2020 年 9 月 7 日（月）19:00－21:00
場所　旧能代市子育て支援センター さんぽえむ
参加　25 名

■ワークショップ（2 回目）

日時　2020 年 11 月 11 日（水）19:00－21:00
場所　旧能代市子育て支援センター さんぽえむ
参加　20 名

■能代市報告会[1]

日時　2021 年 3 月 6 日（土）13:30－15:30
場所　能代市役所二ツ井町庁舎
参加　27 名

② 人口分析・推計（能代市全体）

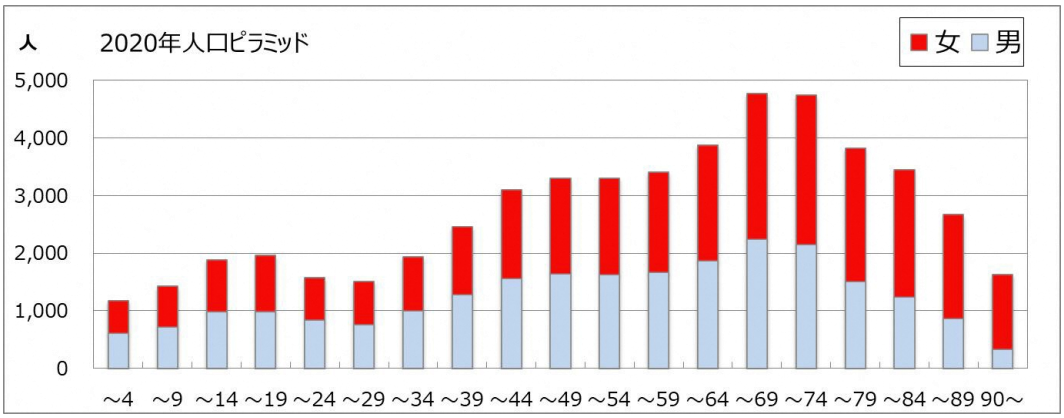
[1] 当初は 2021 年 1 月 23 日に予定されていたが新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため開催を延期し 3 月 6 日にオンラインでの開催を執り行った。

委託機関が構築した人口推計シミュレーションプログラムを用いて能代市全体での人口の現状分析、パターン別人口推計シミュレーションを行った。

1）現状分析（2015～2020 年）

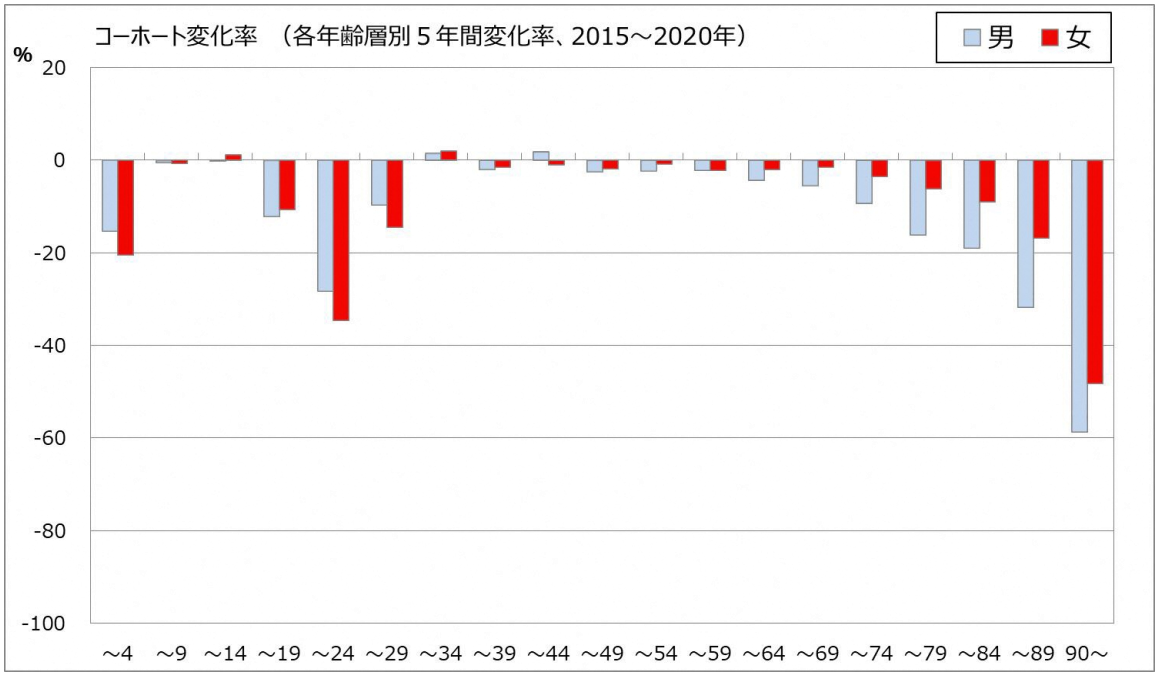
能代市全体の人口構成、過去 5 年間（2015～2020 年）の人口動態の推移を示す。

i. 年代別人口構成



60 代後半が最多の 4,754 人、次いで 70 代前半が 4,725 人となっている。最も少ないのは 0～4 歳の 1,174 人、その次が 5～9 歳の 1,419 人となっている。ピークの年代が 4,000 人台、40 代前半～60 代前半が 3,000 人台、30 代後半が 2,000 人台、それより若い年代は全て 1,000 人台となっている。

ii. 年代別コーホート変化率



これは 2015 年から 2020 年の 5 年間の各年代における人口増減を変化率で示したものである。例えばこの図で示される「～19」は「15～19 歳」の 10 代後半のことで、数値はこ

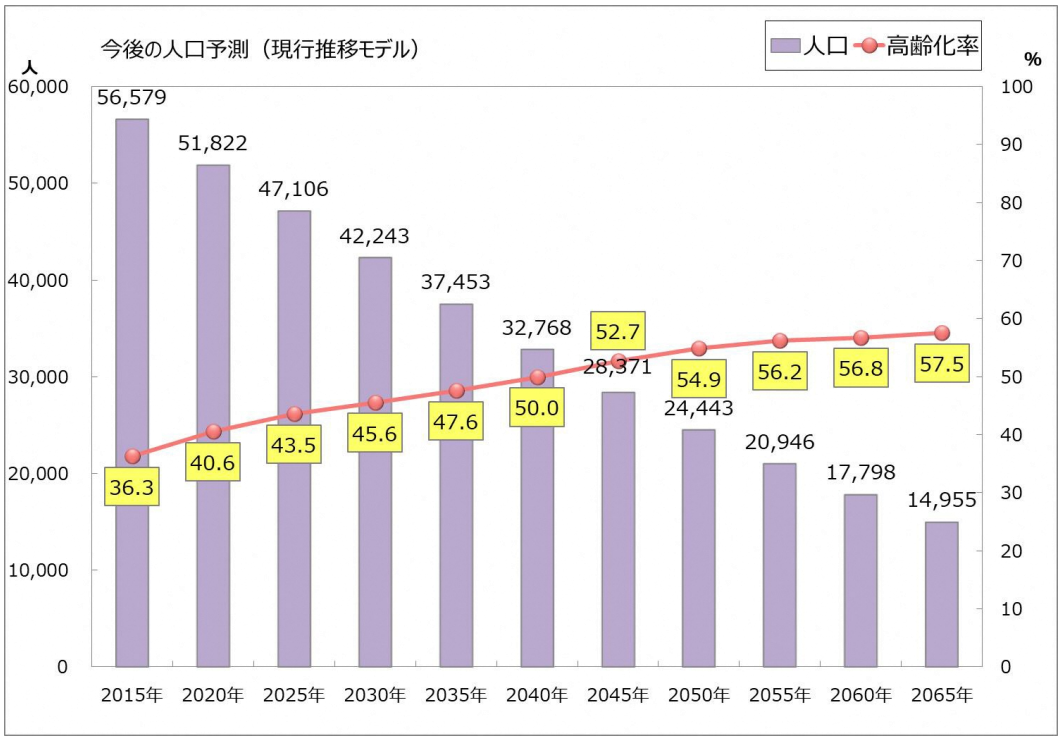
の年代の 2015 年時点の「10～14 歳」の人口と比較してどの程度の増減（主に社会増減）をしているかを表している（０～４歳のみ５年前の比較が出来ないので各時点での人数を比較）。また、高齢年代の減少の多くは自然減である。

能代市では 10 代前半女性、30 代前半男女、40 代前半男性で増加が見られる。しかし、出生率に影響される０～４歳の年代で大幅な減少であること、20 代前半とその前後の年代で大きく減少（流出）していること、その後の年代ではこの減少分を取り戻すに至っていないことから、さらなる対策の必要性が伺われる。

２）現状推移シナリオ

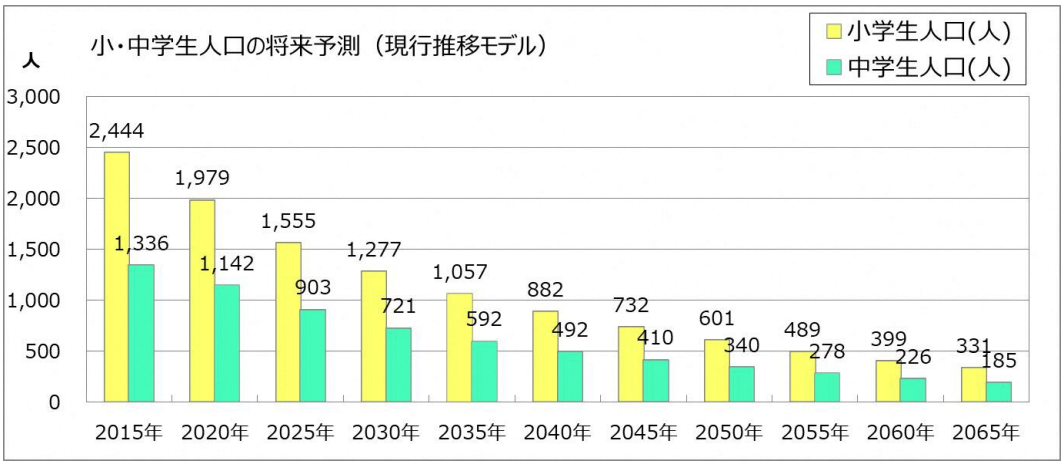
過去５年間（2015～2020 年）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討する。

i. 人口と高齢化率予測



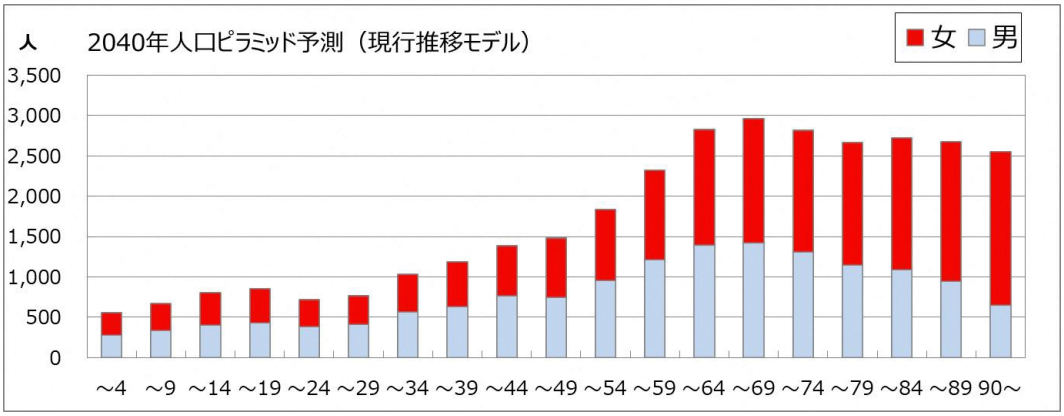
若年層を中心とした流出と高齢者割合の高まりから、高齢化率は 2040 年時点で 50%に達すると予測されている。人口総数は減少の一途で、2020 年比で 2040 年には 63.2%、さらに 2065 年には 28.9%まで減少すると推計されている。

ii. 小・中学生数予測



過去 5 年間の出生数や社会増減を基に予測する限り、小・中学生数も著しい減少となる。2020 年比で 2040 年には 44.0%、2065 年には 16.5%となり、人口総数以上の減少率と推計されている。

iii. 2040 年（20 年後）の年代別人口構成



最も多い年代は 60 代後半ではあるが、60 代前半以降の年代はそれぞれ 2,500～3,000 人台を維持している。それより若い年代は急激に人数を減らし特に 30 代未満からは 1,000 人を割り込むとされる。

3）人口安定化シナリオ

人口安定化シナリオは合計特殊出生率、10 代後半の流出率、定住増加数の 3 つの要素を組み合わせて検討する。人口の安定化には出生率と 10 代後半の流出率を改善させ、過去の若年層の人口流出を補うように、20 代前半夫婦、30 代前半子連れ夫婦、60 代前半夫婦の 3 世代のバランスのとれた定住を増加させることが望ましいと思われる。

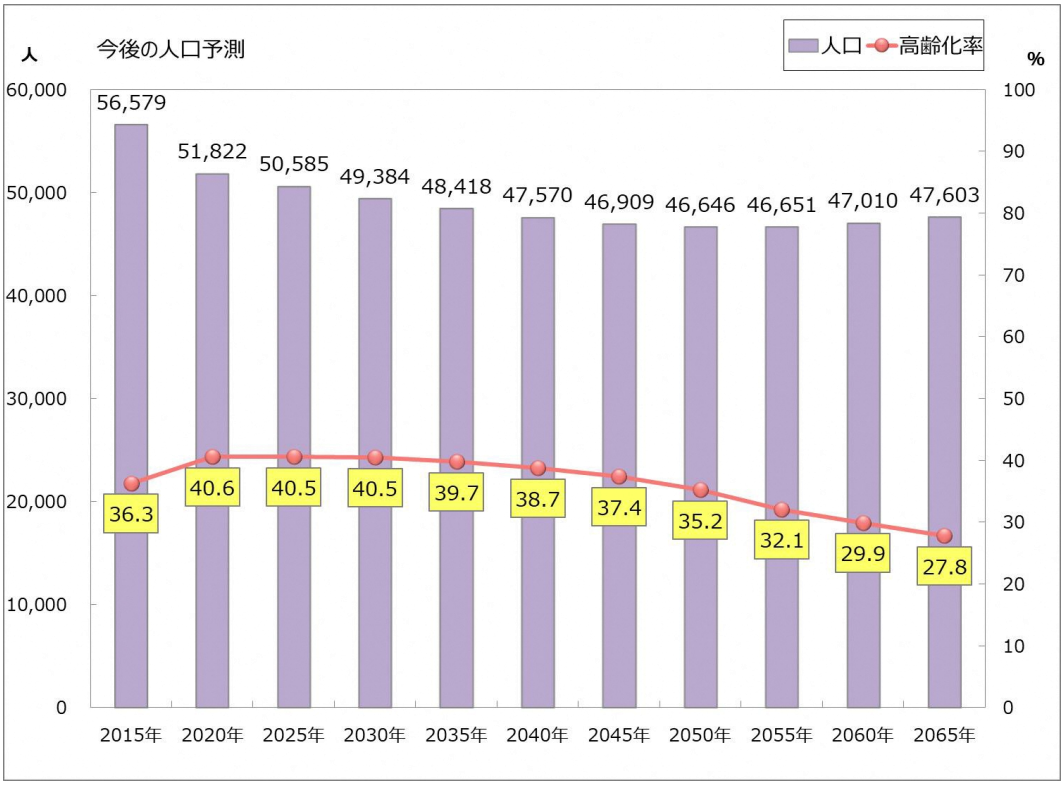
今回の組み合わせでは、出生率は 2015 年に策定された能代市人口ビジョンの推計に準じながらも、より緩やかに回復すると仮定し 2040 年には 1.94、2045 年以降は 2.07 へと段階的に上昇させる設定とした。10 代後半の流出率は現状の半分となるように設定した（詳細は参考資料に記載）。10 代後半の流出率を半分に抑制するという仮定は現実には多くの困難が予想される。しかしながら、この部分を具体的に検討する端緒となることを期待しこの設定とした。定住増加数の対象は 20 代前半夫婦、30 代前半子連れ夫婦、60 代前半夫婦の 3 世代として毎年各 76.5 組の誘致数とした。以上の条件設定で、出生率、流出率、定住増加数の 3 要素を組み合わせた人口安定化シナリオを検討する（下表参照）。

表　人口安定化シナリオの設定数値

合計特殊出生率（%）		10代後半流出率（%）			定住増加数・率/年	
			現状	設定値		
2020～2025年	1.52				各世代（世帯）	76.5
2025～2030年	1.63	男性	28	14	合計世帯数（世帯）	229.5
2030～2035年	1.73	女性	35	17	合計人数（人）	535.5
2035～2040年	1.83				2020年人口比（%）	1.03
2040～2045年	1.94					
2045年以降	2.07					

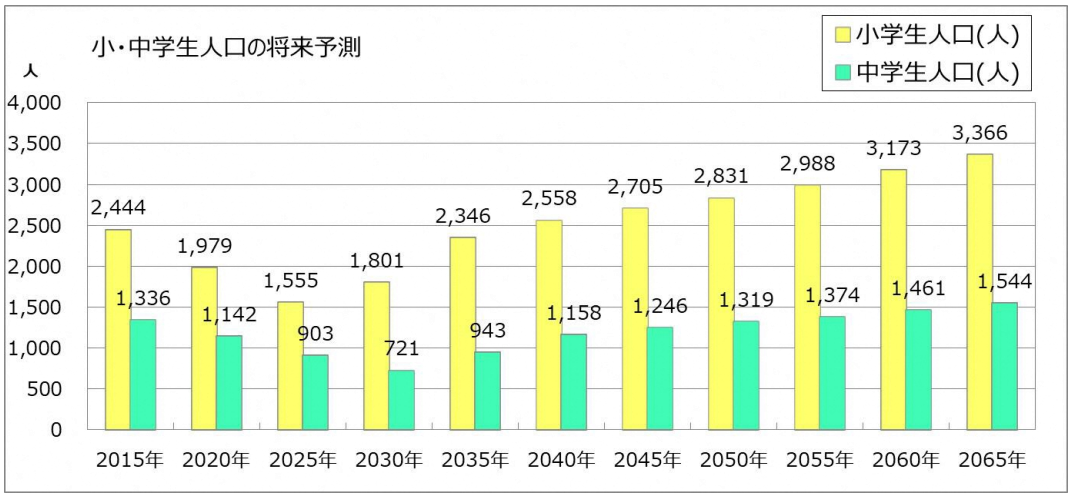
注：20 代前半夫婦は 1 組（世帯）2 人、30 代前半子連れ夫婦は 1 組（世帯）3 人、60 代前半夫婦は 1 組（世帯）2 人と設定。

i. 人口と高齢化予測



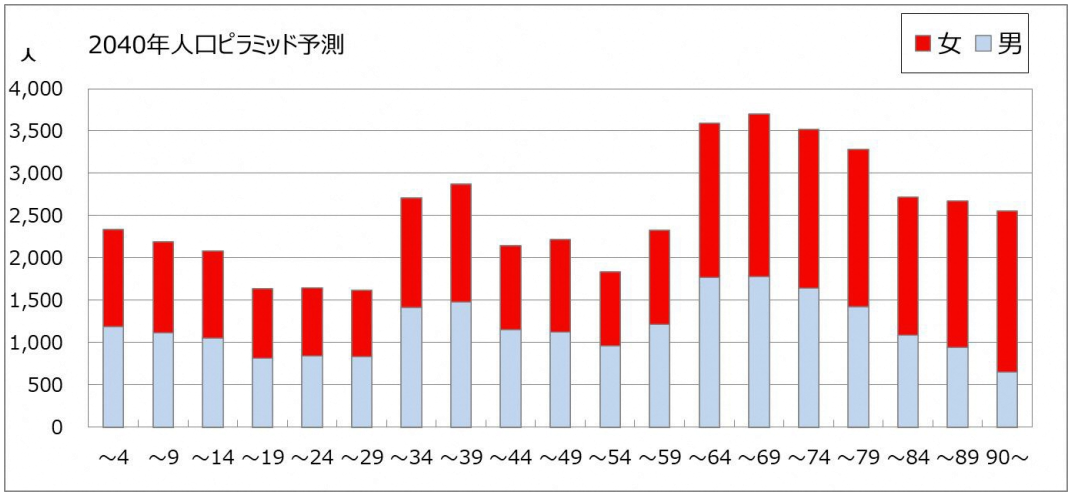
2020 年人口の 1.03%に相当する人数を毎年、呼び込むことが出来れば、人口総数、高齢化率ともに長期にわたり安定化が達成される。

ii. 小・中学生数予測



小・中学生数は、2030 年頃からは増加に転じる。また、2035 年には現在の小・中学生数を若干上回る程度まで回復すると推計された。次頁に示す人口ピラミッドはこの年代層の取り戻しがあって初めて安定的な状態を示すものである。

iii. 2040 年（20 年後）の年代別人口構成



60 代前半と高齢者世代となる 60 代後半以降の年代（地域活動の主力）に最も厚みがあり、30 代やその子どもの年代にもピークが表れるような構造になると推計される。

③ 人口分析・推計（能代市内全地区）

次に能代市内全地区における人口分析・推計結果を掲載する。その内、2015～2020 年の地区別コーホート変化率については一覧表で、それ以外の主だった分析・推計については地図上で色分けした図で表示する。

次頁に示した 2015～2020 年能代市地区別コーホート変化率の表からは人口動態は地区別に異なっており、それぞれの地区に適した独自の対策が必要であることが伺える。

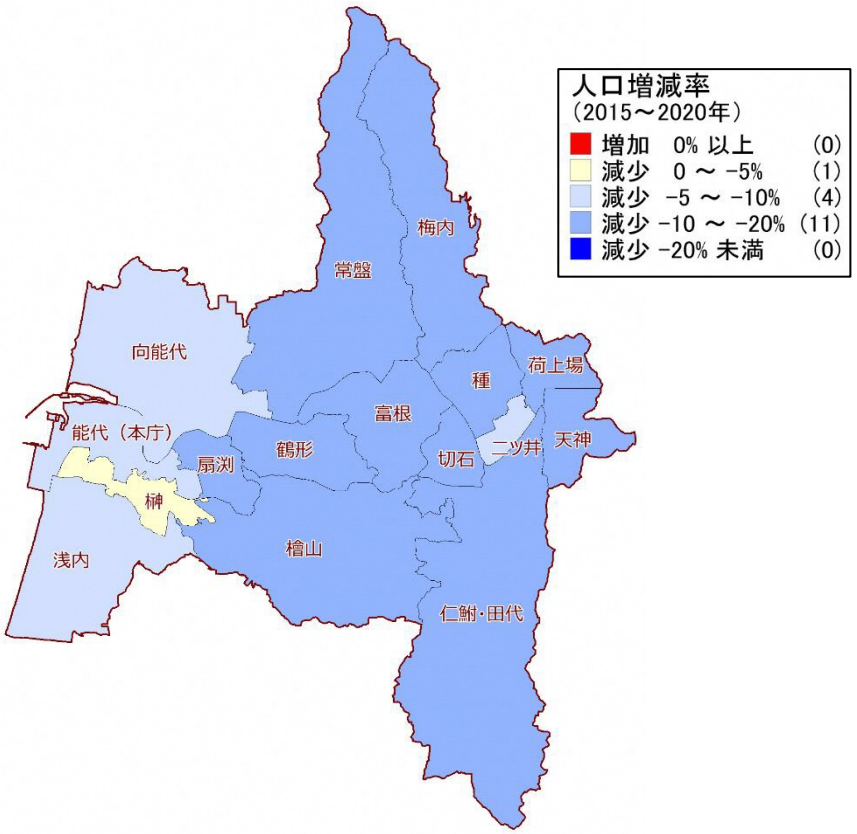
その次に図示した分析項目は人口増減率（2015～2020 年）、高齢化率（2020 年）、社会増減率（2015～2020 年）、4 歳以下増減率（2015～2020 年）、小学生増減率（2015～2020 年）、30 代女性コーホート増減率（2015～2020 年）、人口増減率予測（2020～2050 年）、2050 年に人口安定化を達成するために必要な毎年の定住増加率（2020 年人口比%）である。この分析・推計結果は市内全地区が表示された地図上に色分けして表示する。結果の評価については良い場合の暖色（赤色）から悪い場合の寒色（青色）まで段階的に表示している。

■2015～2020 年能代市地区別コーホート変化率

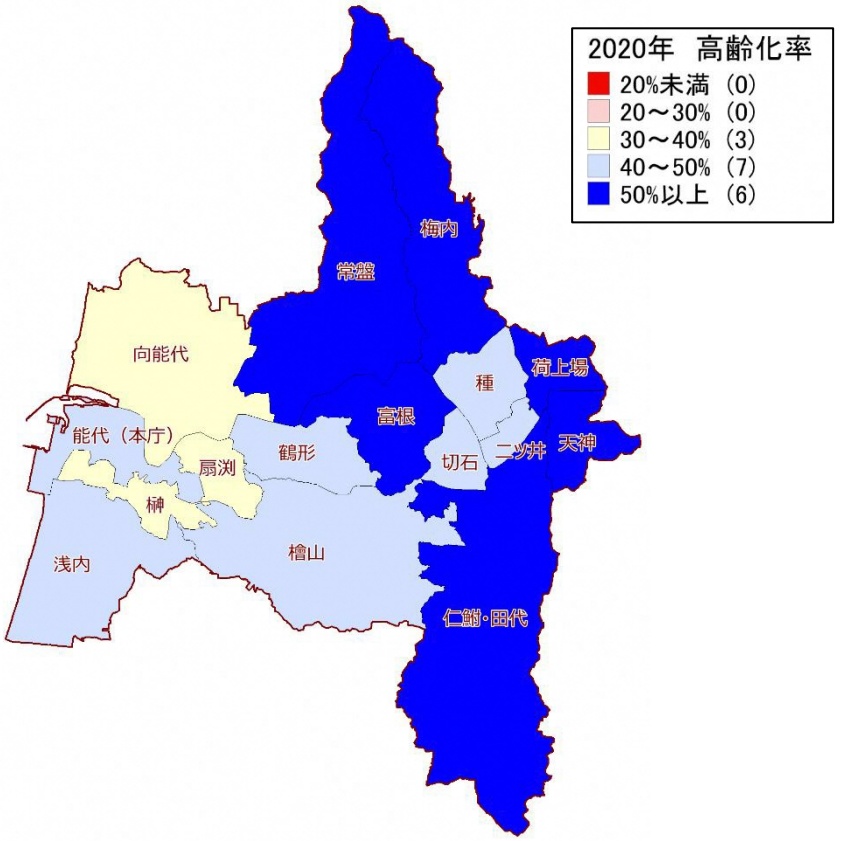
地域名	性別	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳
能代(本庁)	男	0.95	0.99	1.00	0.90	0.75	0.87	1.04	0.98	1.03	0.95	0.97	0.98	0.95	0.94	0.91	0.84
	女	0.87	1.09	1.04	0.91	0.71	0.88	1.01	0.99	1.00	0.98	0.98	0.97	0.98	0.98	0.97	0.93
榊	男	0.74	1.01	1.02	0.93	0.56	0.98	1.10	0.99	1.04	1.00	1.04	0.97	1.00	0.98	0.92	0.80
	女	0.73	0.87	1.06	0.96	0.71	1.08	1.17	0.86	0.98	1.05	1.02	0.97	0.97	0.99	0.96	0.96
向能代	男	1.04	1.05	0.99	0.90	0.89	1.16	1.03	0.99	1.03	1.02	0.95	0.97	0.95	0.95	0.92	0.83
	女	0.76	0.93	0.98	0.97	0.65	0.96	0.96	1.10	1.00	0.94	1.00	0.97	0.96	0.99	0.95	0.96
扇渕	男	0.77	0.92	1.00	0.68	0.60	1.14	0.86	0.92	0.97	0.95	0.83	0.95	0.95	0.99	0.94	0.82
	女	0.96	0.96	0.95	0.75	0.44	0.63	1.18	1.04	1.03	0.88	0.91	0.97	0.98	1.03	0.96	0.92
檜山	男	0.50	1.10	1.10	0.87	0.58	0.69	1.00	1.00	1.00	1.00	0.94	0.92	0.89	0.95	0.96	0.82
	女	2.50	2.50	1.20	0.75	0.77	1.00	1.10	0.81	1.04	1.04	1.00	1.00	0.93	0.98	1.00	0.94
鶴形	男	1.25	0.75	1.17	0.93	0.76	0.82	0.57	1.09	0.94	0.79	1.00	0.95	0.89	0.88	0.86	0.75
	女	0.33	1.33	1.00	0.75	0.81	0.44	1.75	1.25	0.90	1.00	1.13	1.10	0.97	0.97	1.00	0.93
浅内	男	0.56	0.82	0.97	0.83	0.80	0.83	1.04	0.98	0.96	1.05	0.99	1.00	1.00	0.92	0.88	0.88
	女	0.76	0.76	0.91	0.81	0.61	0.75	0.94	0.96	0.94	1.00	0.95	1.00	1.00	0.98	0.94	0.95
常盤	男	0.31	0.92	0.84	0.71	0.56	0.59	1.00	0.95	0.98	1.00	0.98	0.98	0.97	0.91	0.90	0.82
	女	1.22	1.11	0.93	0.78	0.50	0.47	0.93	0.83	0.95	0.90	1.02	1.04	0.98	0.92	0.96	0.94
天神	男	0.20	1.00	0.88	1.17	0.81	0.44	0.90	1.08	1.09	0.88	1.00	1.06	0.96	0.92	0.89	1.00
	女	4.00	1.00	1.00	0.63	0.38	0.43	1.00	0.83	0.93	0.93	1.07	1.07	1.00	0.97	0.93	0.88
種	男	1.00	1.00	1.00	0.86	0.55	0.70	1.43	1.00	1.30	1.00	1.00	1.05	0.95	0.90	0.90	0.92
	女	0.57	1.00	1.17	1.33	0.42	0.80	0.40	0.80	1.09	0.90	0.91	1.08	0.95	1.00	0.93	0.95
梅内	男	0.40	0.80	1.00	1.00	0.80	0.60	0.89	1.00	0.79	1.00	1.00	0.92	0.92	0.93	0.86	0.82
	女	1.00	1.00	1.00	1.00	2.00	0.75	0.40	0.92	0.87	1.00	0.80	0.91	1.00	1.00	1.00	0.88
富根	男	0.50	0.80	0.91	0.67	0.77	0.65	0.71	0.85	0.96	0.87	1.04	0.96	0.91	0.94	0.95	0.84
	女	1.00	1.00	0.73	0.92	0.65	0.57	0.69	1.06	0.77	1.11	1.03	1.00	0.97	0.95	0.99	0.96
切石	男	0.50	0.83	1.00	0.60	0.50	0.54	1.00	1.00	1.00	1.00	0.96	1.00	1.00	0.91	0.80	0.86
	女	1.00	2.00	1.00	0.68	0.45	0.33	0.63	0.67	0.92	0.92	1.03	1.00	1.00	1.12	0.97	0.91
仁鮒・田代	男	0.57	0.86	0.94	0.73	0.71	0.77	1.07	1.00	0.88	1.06	0.96	0.98	0.93	0.95	0.82	0.84
	女	0.63	1.25	0.93	0.75	0.62	0.63	1.12	0.75	0.90	1.04	1.05	1.00	0.94	1.00	1.00	0.95
二ツ井	男	0.89	1.13	1.07	0.93	0.70	0.80	0.93	1.03	1.01	0.94	0.98	0.99	0.99	0.97	0.91	0.88
	女	0.52	0.95	0.98	0.83	0.52	0.85	1.09	1.10	1.14	0.98	1.04	0.95	1.02	0.98	0.93	0.92
荷上場	男	1.00	1.17	0.89	0.62	0.74	0.73	1.00	0.89	0.87	0.84	1.07	1.00	0.88	0.95	0.93	0.79
	女	0.55	1.09	1.00	0.75	0.70	0.69	1.00	0.82	1.00	0.96	0.96	1.07	1.03	0.94	1.02	0.94

注：コーホート変化率の計算方法は参考資料に掲載のとおり。

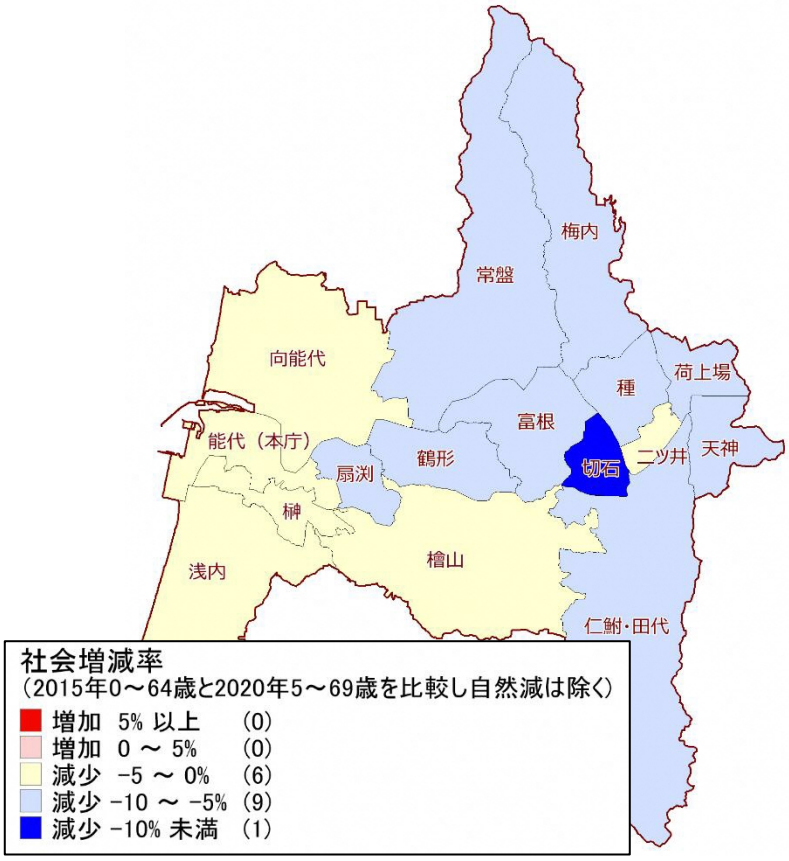
■人口増減率（2015～2020 年）



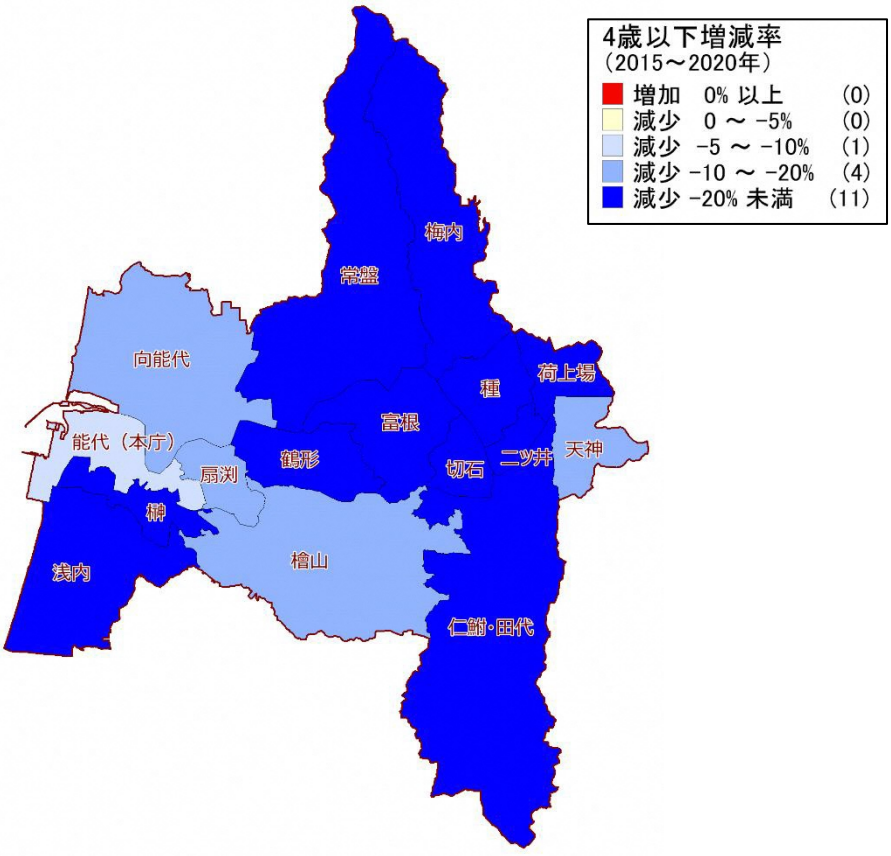
■高齢化率（2020 年）



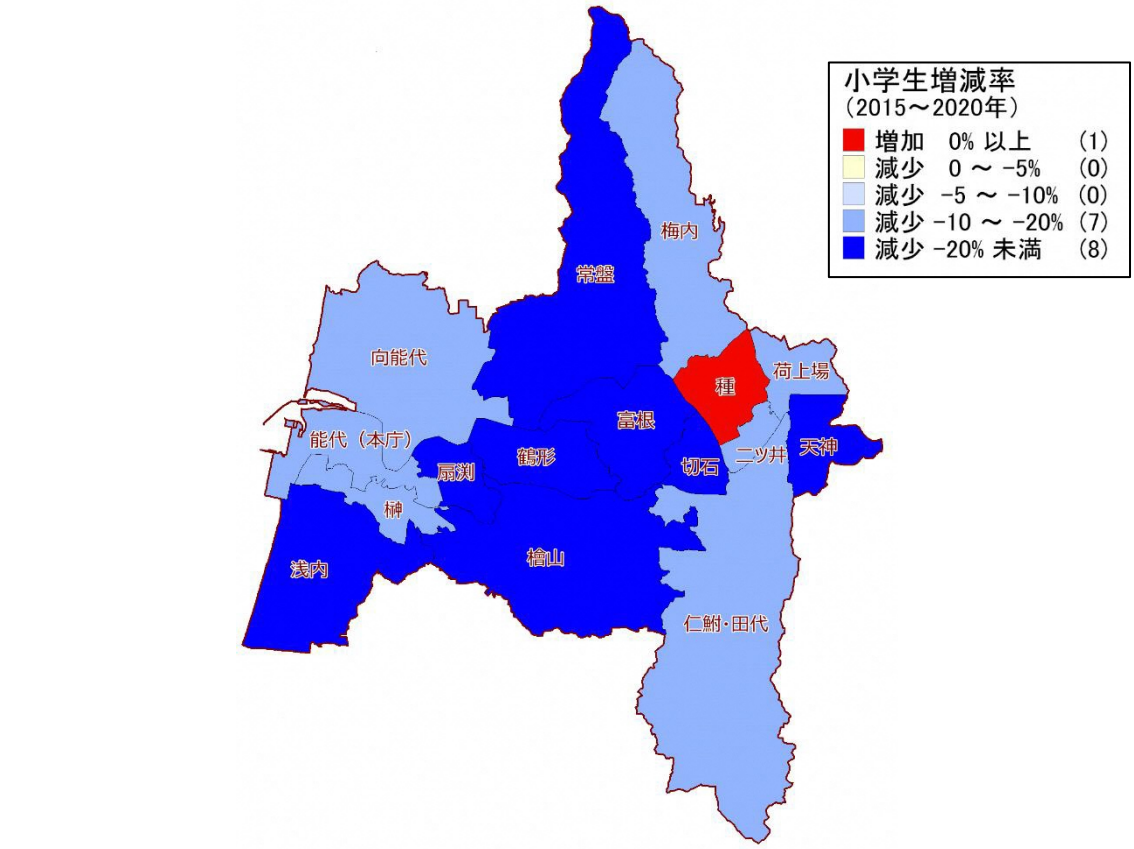
■社会増減率（2015～2020 年）



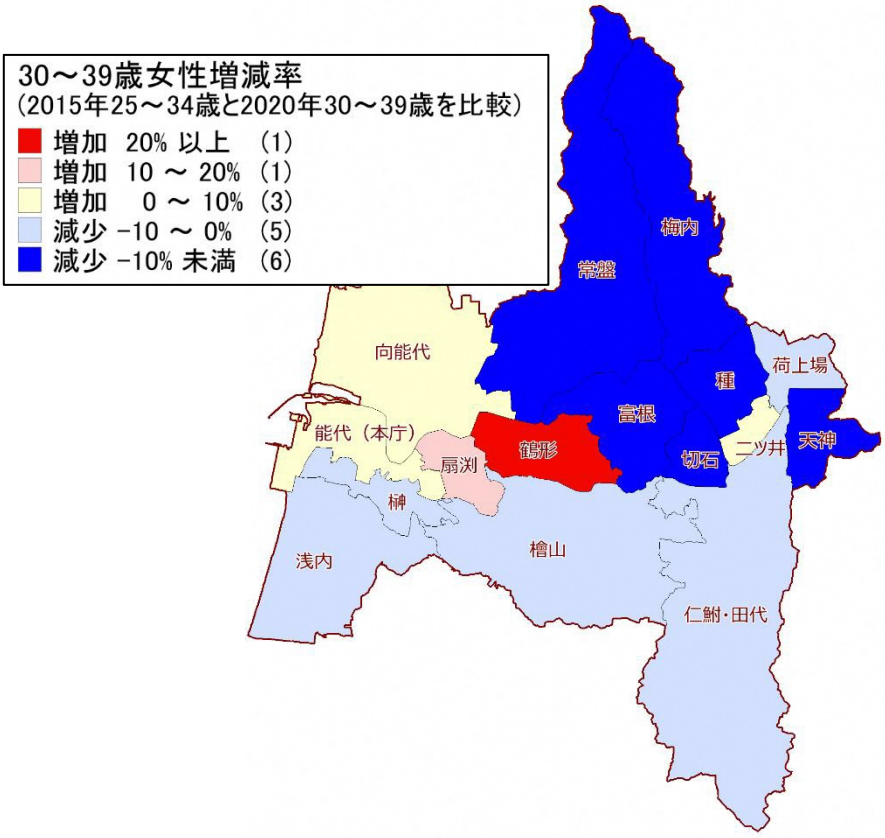
■4 歳以下増減率（2015～2020 年）



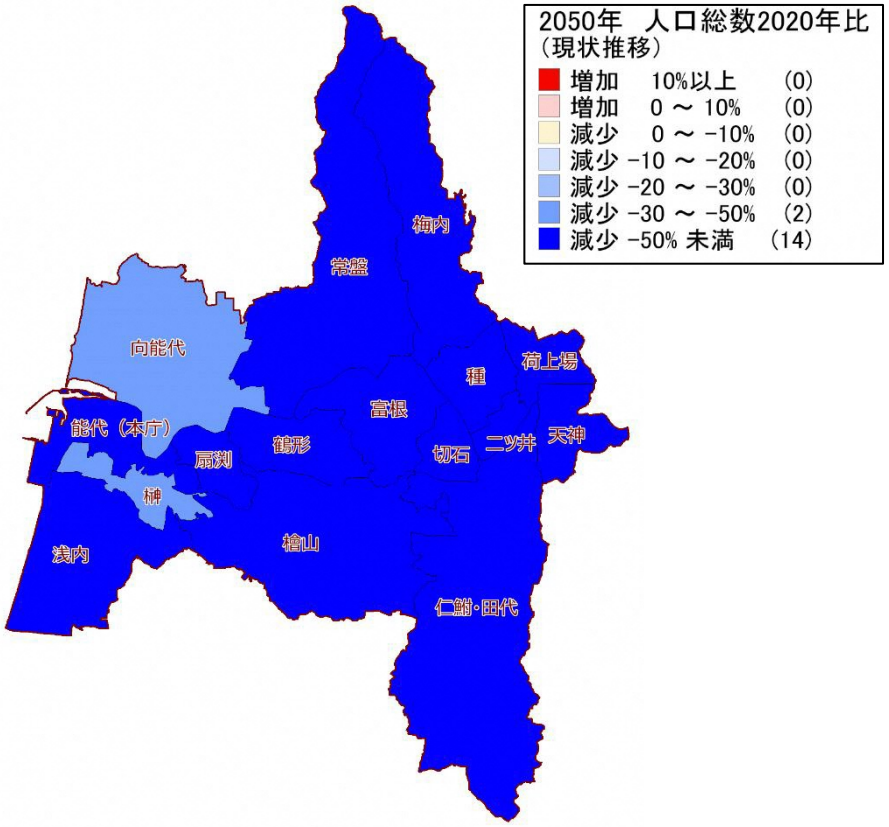
■小学生増減率（2015～2020 年）



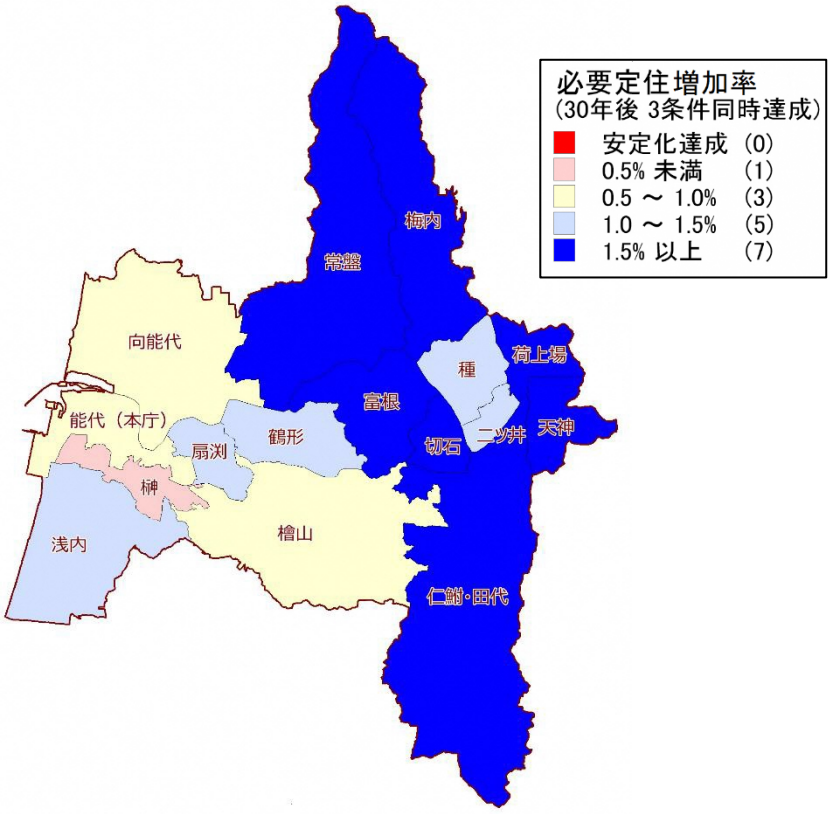
■30 代女性コーホート増減率（2015～2020 年）



■人口増減率予測（2020～2050 年）



■2050 年に人口安定化を達成するために必要な毎年の定住増加率（2020 年人口比%）



④ モデル地区（能代市梅内地区）の概要

能代市は 16 地区から構成されており、その内旧二ツ井町にある梅内地区をモデル地区として本事業を実施した。梅内地区は 7 つの自治会（11 集落）から構成されている。人口 399 人、169 世帯、高齢化率 53.9%（2020 年 12 月当時）の能代市の北東部に位置する山間の地区である。

梅内地区は明治時代から行われた植林により 1,900ha（個人有約 1,200ha、集落有約 700ha）もの森林を有している。この管理等を目的に認可地縁団体である梅内聚落が組織されている。地区内から区長 1 名、協議員 12 名を選出し運営に当たっている。梅内聚落は梅内地区の 7 自治会（11 集落）の連合自治会としての役割も有し、地区内の馬子岱公園の管理や植栽、敬老式の準備や開催、神社秋祭り等も行っている。また、2012 年には豊富な森林資源の有効活用を目的に二ツ井宝の森林プロジェクトが立ち上がっている。このプロジェクトは梅内聚落とほぼ同じメンバーで構成されている。二ツ井小学校での体験活動や自らが間伐し、あるいは森林組合に施業を依頼し作業終了後の林地残材を有効活用する等して薪の製造と販売をしている。道の駅ふたついの薪ボイラー用の薪の供給も担っている。加えて 2016 年からは女性メンバーが中心の梅内山菜倶楽部も発足しており、約 20ha の伐採跡地に自生するワラビを中心に GB（じっちゃん・ばっちゃん）ビジネスとして展開している。

その他にも駒踊り等の郷土芸能保存会があることや、ソバの生産（田の源そば）、地区内の本郷集落では湧き出る冷泉を大半の家に配管し、さらに高齢者ふれあい交流施設等 3 施設にも供給していることが特色として挙げられる。加えて旧能代市子育て支援センターさんぽえむの利活用の協議も始まっている。様々に活動的な地区であるが、かつて 3 協定あった中山間地域等直接支払制度は第 5 期から担い手不足により行わない等、弱体化の傾向も見られ始めている。

その他、地区内の団体や組織に関してはヒアリング調査から作成した次頁の地元関係図にまとめたので参照いただきたい。

手入れされた森林

整然と積まれた薪

田園風景

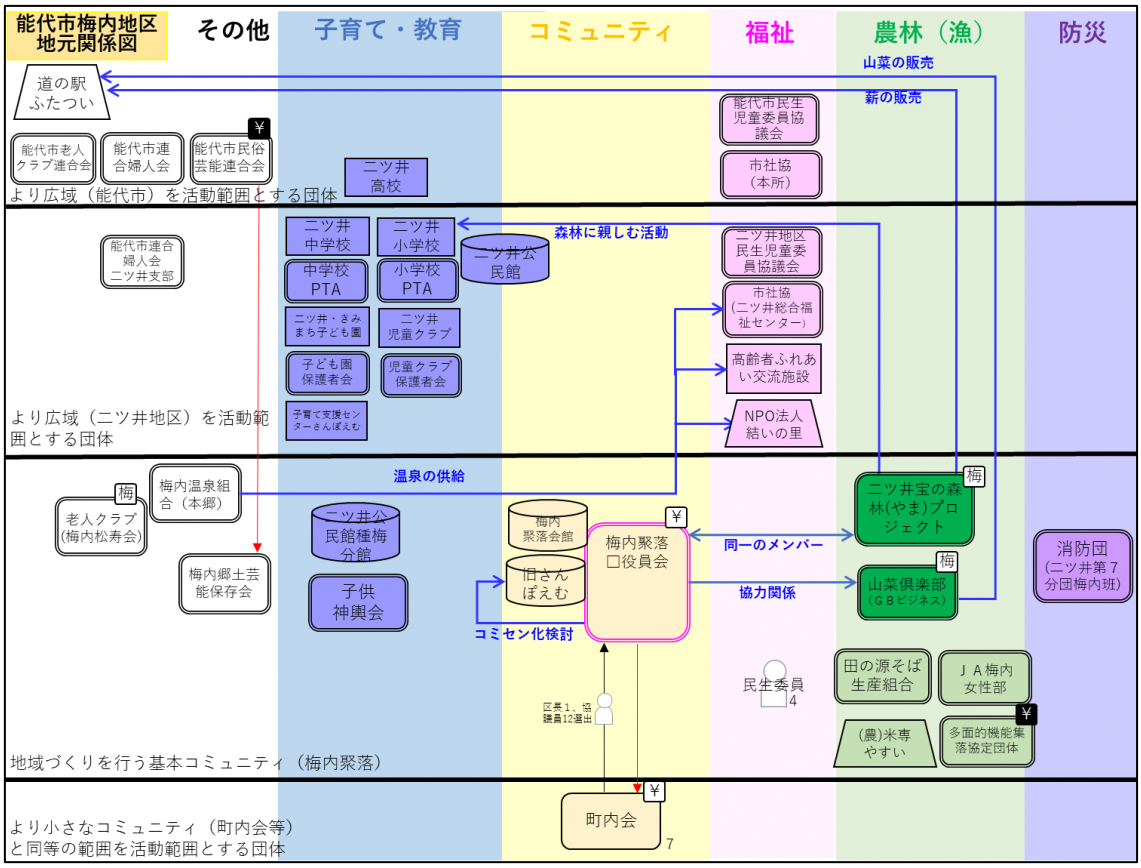


図 梅内地区の地元関係図

注：□の￥は地域住民から集めたお金、■の￥は行政からの交付金・補助金、□の梅は梅内聚落からの配分金、赤い矢印は組織間のお金の流れを表現。

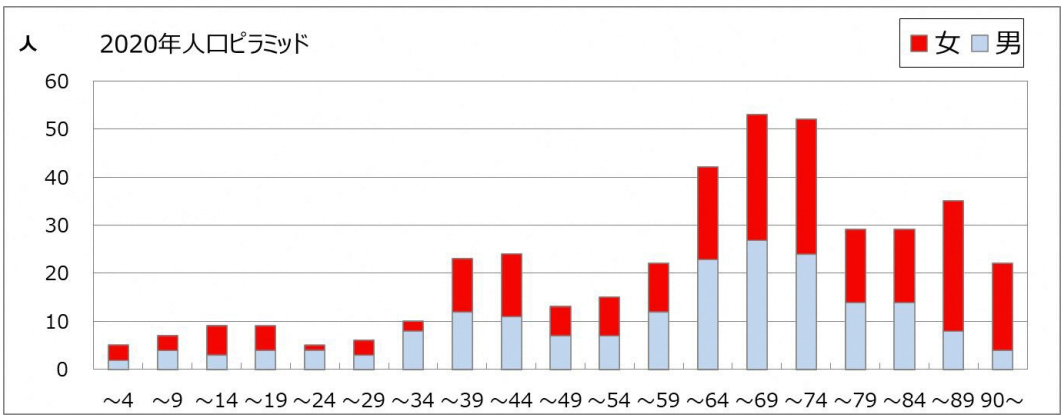
⑤　人口分析・推計（能代市梅内地区）

能代市全体での人口の現状分析、パターン別人口推計シミュレーションと同様の分析と検討を梅内地区においても行った。

1）現状分析（2015～2020 年）

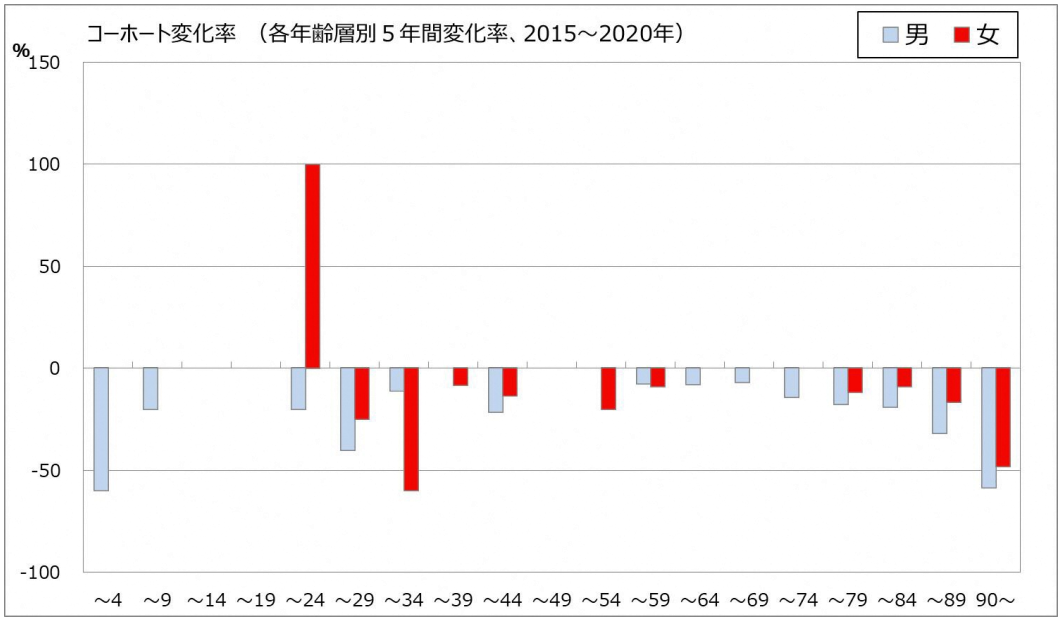
梅内地区における人口構成、過去 5 年間（2015～2020 年）の人口動態の推移を示す。

i.　年代別人口構成



最多は 60 代後半の 53 人、次いで 70 代前半の 52 人となっている。この年代が地域の主力年代と見受けられる。最少は 0 ～ 4 歳と 20 代前半の 5 人で、30 代前半より若い年代はいずれも 10 人以下である。加えて 20 代前半～30 代前半は女性割合も極めて低い。しかし、30 代後半と 40 代前半は前後の年代に比べ 2 倍程度の人数が維持されている。

ii.　年代別コーホート変化率



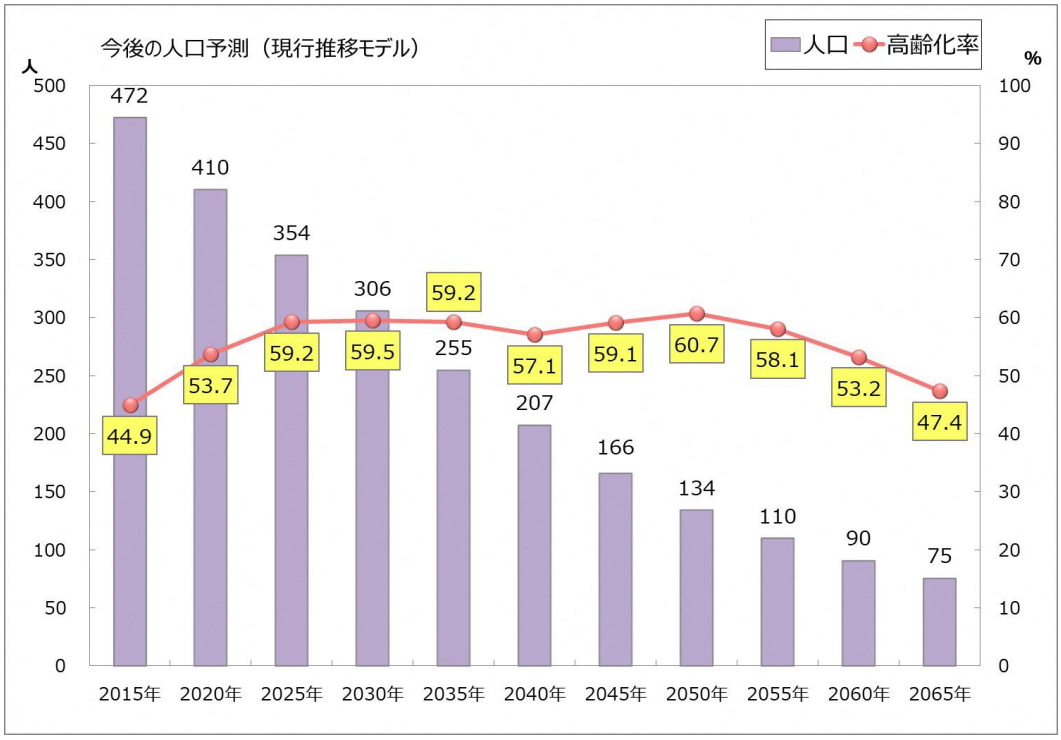
20 代前半女性が増加している。これは 5 年前の時点で 10 代後半女性は 0 人であったが 1 人増加したことで 100%増加という結果で表れているものである。それ以外の増加はな

いものの増減が０％の年代・性別も多数見受けられる。しかし、全体的には大幅な減少傾向が表れている。

２）現状推移シナリオ

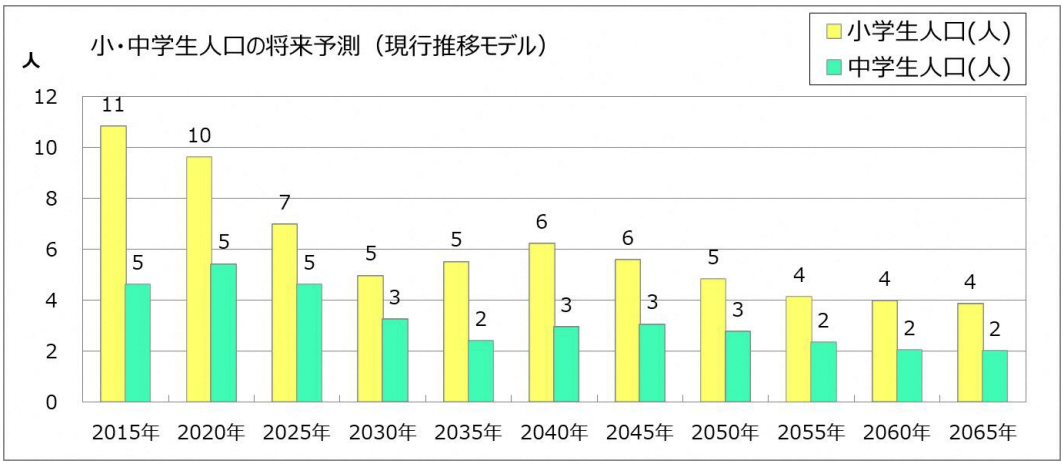
梅内地区における過去５年間（2015～2020 年）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討していく。

i. 人口と高齢化率予測



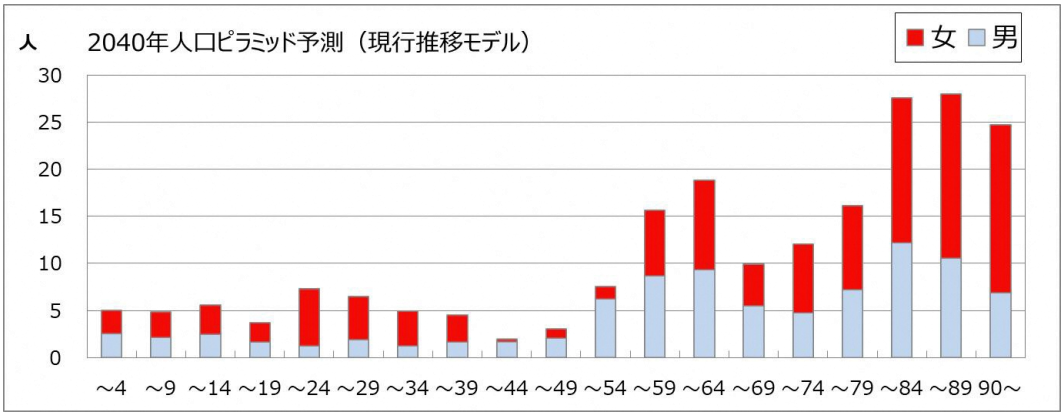
市全体と比較しても人口減少は急速に進むものと見込まれる。高齢化率については改善しているように見えるが計算上、過去５年間（2015～2020 年）に起こった 20 代前半女性の増加を加味してシミュレーションしているためである。また梅内地区はすでに相当程度、高齢化が進行しているので、若年層の社会減以上に高齢者の自然減が多くなるという予測も反映している。人口は 2020 年比で 2040 年には 50.5%、2065 年には 18.3%まで減少すると推計されている。

ii. 小・中学生数予測



小・中学生数も著しい減少となる。しかし、こちらも計算上、2015～2020 年の 20 代前半女性の増加を加味しているため、極端な減少とはならないと推計された。それでも 2020 年比で 2040 年には 60.0%、2065 年には 40.0%まで減少し、その実数は 6 人と推計されている。

iii. 2040 年（20 年後）の年代別人口構成



80 代後半が最も多い年代になると推計された。50 代後半より若い年代に全く厚みのない人口構成で今後のコミュニティの運営や維持は困難になると言わざるを得ない状況になると推計された。

3）人口安定化シナリオ

能代市全体での検討と同様に梅内地区においても人口安定化シナリオを検討する。この検討には合計特殊出生率、10 代後半の流出率、定住増加数の 3 つの要素を組み合わせる。

今回の組み合わせでは、出生率は 2015 年に策定された能代市人口ビジョンの推計に準じながらも、より緩やかに回復すると仮定し 2040 年には 1.94、2045 年以降は 2.07 へと段階的に上昇させる設定とした。10 代後半の流出率は現状の半分となるように設定した（詳細は参考資料に記載）。10 代後半の流出率を半分に抑制するという仮定は現実には多くの困難が予想される。しかしながら、この部分を具体的に検討する端緒となることを期

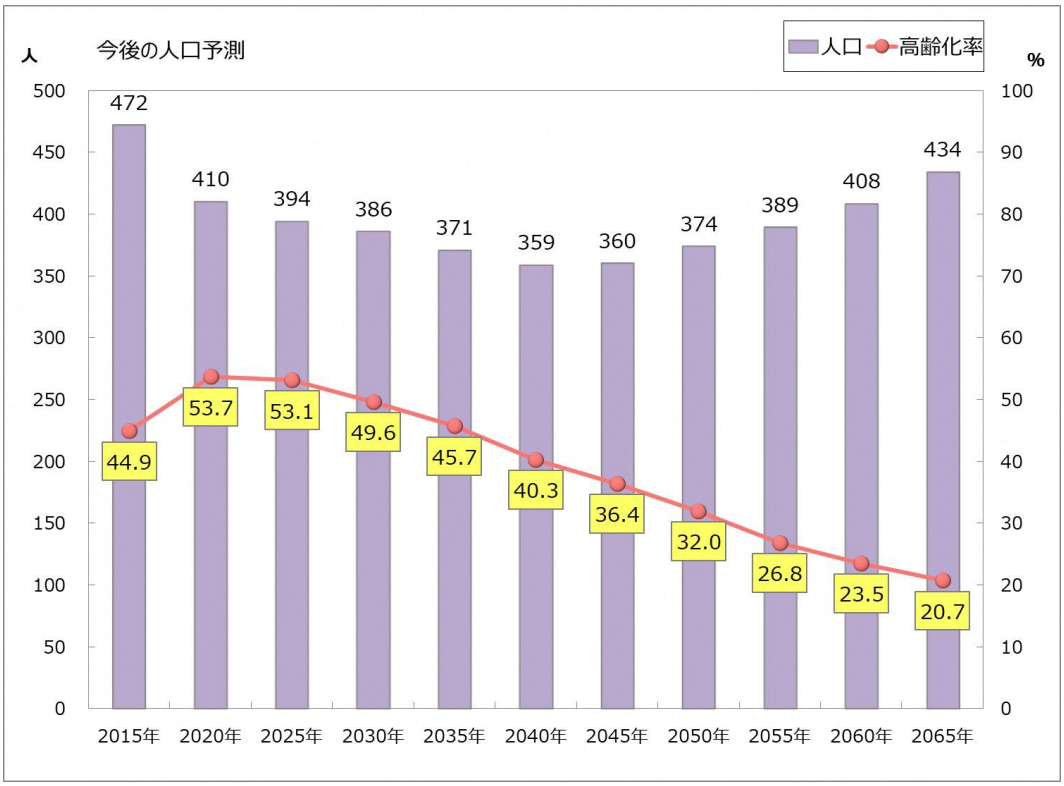
待しこの設定とした。定住増加数の対象は 20 代前半夫婦、30 代前半子連れ夫婦、60 代前半夫婦の 3 世代として毎年各 1.0 組の誘致数とした。以上の条件設定で、出生率、流出率、定住増加数の 3 要素を組み合わせた人口安定化シナリオを検討する（下表参照）。

表　人口安定化シナリオの設定数値

合計特殊出生率（%）		10代後半流出率（%）			定住増加数・率/年	
			現状	設定値		
2020～2025年	1.52				各世代（世帯）	1.0
2025～2030年	1.63	男性	20	10	合計世帯数（世帯）	3.0
2030～2035年	1.73	女性	-100	-100	合計人数（人）	7.0
2035～2040年	1.83				2020年人口比（%）	1.71
2040～2045年	1.94					
2045年以降	2.07					

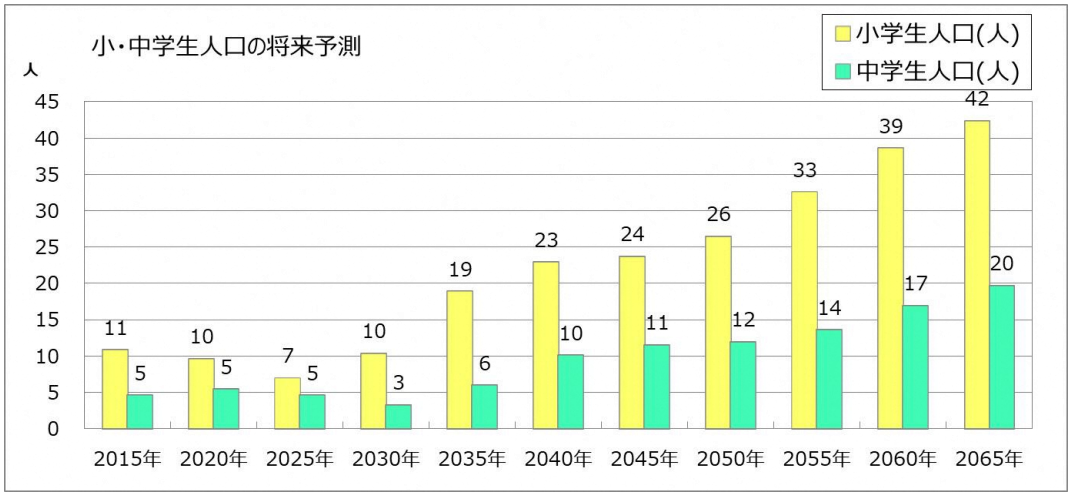
注：20 代前半夫婦は 1 組（世帯）2 人、30 代前半子連れ夫婦は 1 組（世帯）3 人、60 代前半夫婦は 1 組（世帯）2 人と設定。
10 代後半流出率における女性の「－100」については 2015～2020 年に 20 代前半女性が 0 人から 1 人（100%）増加したことによるものである。恒常的に起こり得る確率は低いが現状の数値であるためそのまま採用した。

i. 人口と高齢化予測



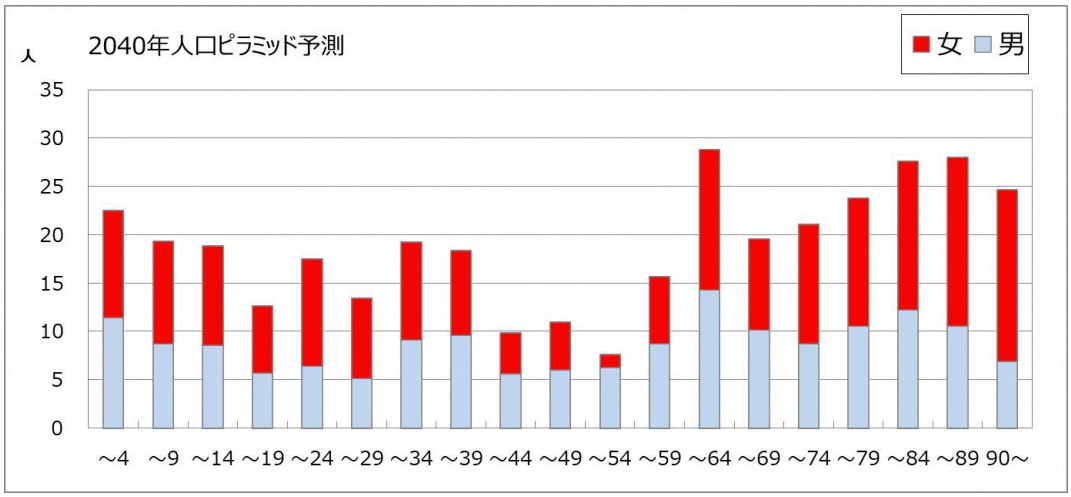
人口総数、高齢化率とも、長期にわたり安定化が達成される。

ii. 小・中学生数予測



子育て夫婦や若者夫婦の継続的な定住が達成されれば小・中学生数は、2030 年頃には増加に転じ 2030～2035 年には現在の小・中学生数を上回る程に回復すると推計される。

iii. 2040 年（20 年後）の年代別人口構成



60 代より高齢の層に厚みが維持されている。30 代では人口の取戻しがあり、その子ども年代にもピークが存在するような人口構成になると推計される。

⑥ ワークショップ（１回目）　（人口安定化ワークショップ）

１）目的

本業務の目的でもある具体的な定住促進策の検討には住民の参加が求められる。当ワークショップでは、住民の方々に地域の人口動態を再確認いただき、移住者がどのくらい増えれば地域の人口はどのように変化するのか具体的にシミュレーションいただいた。その上で目標とすべき移住者誘致数や地域人口の安定化を検討することを目的として行った。

２）開催概要

■日時/場所/参加者

・日時　　2020 年 9 月 7 日（月）19：00－21：00
・場所　　旧能代市子育て支援センター さんぽえむ
・参加者　地域住民（25 名）、能代市職員、秋田県職員、能代市市民活動支援センター センター長等
　　A～E の 5 班に市職員等が数名配置され、各班 6 名前後の構成

■実施・作業内容

・一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所の藤山氏による当日の作業内容等の概要説明
・人口動態の増減要因分析として自らの地区の 2015 年から 2020 年の各年代、男女別の人口動態（コーホート変化率）を確認し、その増減要因を分析
・人口推計シミュレーションプログラムを実際に体験し、人口安定化に向けた具体的な移住者数の検討

■当日の様子

３）人口動態の増減要因分析

この作業では参加者に対して梅内地区の年代別コーホート変化率のグラフを提示しながら、各年代の増減要因を検討いただいた。各班の検討結果の要約・抜粋が次頁表である。

表　梅内地区における人口増減要因分析結果の要約・抜粋

年齢	人口増加要因	人口減少要因
0～4	子どもが産まれた	結婚しないから 親の転勤
5～9		親と一緒に能代市に引っ越し
10～14		
15～19		進学・就職
20～24	結婚により女性が増えた	働く場所がない 給料が安い
25～29		働く場所がない
30～34		市外へ結婚により転出
35～39		結婚して別世帯を持つ(能代市へ) 子供の高校への通学のため転居
40～44		職場・学校への通勤・通学のため
45～49		転勤
50～54	介護や就農 両親の家に帰ってきた	
55～59		便利な所へ転居
60～64		やりたい事の実現 県外へ転出
65～		施設入所

この表からは0～4歳、20代前半、50代前半の人口増加要因として出産や結婚、介護のためのUターンが見受けられるが、その他の多くの年代に増加の傾向を感じていないことが伺える。減少要因では結婚を機に、子どもの通学や職場への通勤のために利便性の高い旧能代市へ転出するという分析がなされている。すでに旧二ツ井町中心部への流出も潮流としては古いものとなっており、能代市の縁辺地域と言わざるを得ない梅内地区の厳しい現状を住民の方々も感じ、分析していることが分かる。

4）人口安定化のシナリオづくり

次に人口推計シミュレーションプログラムを使用し20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代の目標誘致数、合計特殊出生率目標、10代後半流出率削減目標を検討いただいた。その際、現実的に達成したい現実版の目標と、可能ならばこれくらい来て欲しいという理想版の目標を立てていただいた（次頁表参照）。なお10代後半流出率削減目標については現在の男性20%を10%にし、増加していた女性の－100%はその増加傾向を抑えて－20%に設定した。合計特殊出生率については現在の1.18から2045年までに1.80へ上昇するよう設定した。人口安定化をより身近に感じていただくために、「⑤―3）人口安定化シナリオ」で設定した数値と比べて流出率削減目標と合計特殊出生率はより緩やかな数値目標となるようにした。

表　梅内地区における検討された人口安定化シナリオ

項目	班	A	B	C	D	E	単位
誘致世帯数・人数/年 目標							
20代前半夫婦	現実版	0	0.5	0	0	0	
	理想版	0	1	0	5	1	
30代前半子連れ夫婦	現実版	1	0	0	1	0	組
	理想版	2	0.5	1	5	0.5	
60代前半夫婦	現実版	1	1	1	2	1	
	理想版	0	3	2	1	1	
合計人数	現実版	5	3	2	7	2	人
	理想版	6	9.5	7	27	5.5	

各班でシミュレーションした結果、様々な組み合わせが検討された。現実版の検討では20代前半夫婦や30代前半子連れ夫婦の誘致はほとんど出来ないという諦めとも認められる目標が散見された。反面、現実版、理想版ともに60代前半夫婦の誘致には可能性を感じていることが伺える。

例えばD班の現実版の検討結果は次頁に示した通りである。30代前半子連れ夫婦を1組、60前半夫婦を2組、毎年誘致すると高齢化率は大よそ現状維持で推移し、人口減少は緩やかになるものの安定化は見られないという結果になった。しかし、子どもの人数は徐々に増加するものと推計された。

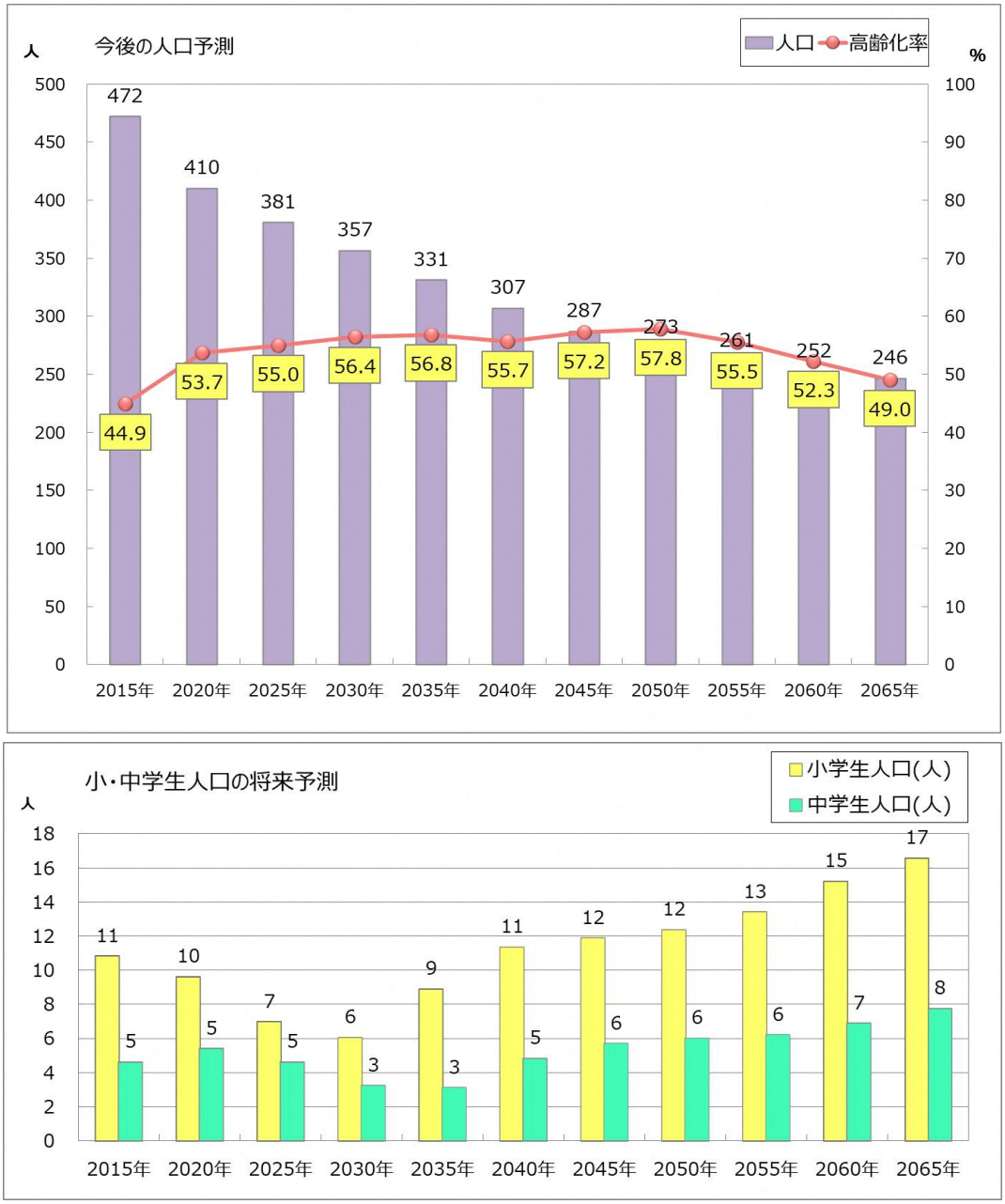


図　梅内地区 D 班現実版の検討結果 人口と高齢化予測（上）と小・中学生数予測（下）

5）まとめ

本ワークショップでは参加された住民の方々に対して、地域の人口動態を今一度、確認する機会として最新情報を提供し認識、共有いただいた。現状のまま人口減少が進むことで、地域の人口がどうなってしまうのか視覚的に理解することが出来た。また、人口安定化のシミュレーション作業では数値を入れ替える都度、結果も変わるので様々な数値を試していただくことが出来た。その結果、消極的な目標では容易に人口減少は止まらないということを実感いただけたのではないか。こうした意識を共有出来たことも本ワークショップの成果であった。

⑦ ワークショップ（２回目）　（地元天気図ワークショップ）

１）目的

ワークショップ（1 回目）を受けて、このワークショップでは地元関係図を基に地域の現状と定住促進を可能とする将来像について検討を行った。地域の行動計画（グランドデザイン）策定の一助、あるいは地域の拠点づくりや実際に移住者を呼び込むという動きを生み出す端緒となることを念頭に置いている。実施地域における今後の検討材料として活用いただきたい。

２）開催概要

■日時/場所/参加者

・日時　　2020 年 11 月 11 日（水）19：00－21：00
・場所　　旧能代市子育て支援センター さんぽえむ
・参加者　地域住民（20 名）、能代市職員、秋田県職員、能代市市民活動支援センター センター長等
　　Ａ～Ｄの 4 班に市職員等が数名配置され、各班 6 名前後の構成

■実施・作業内容

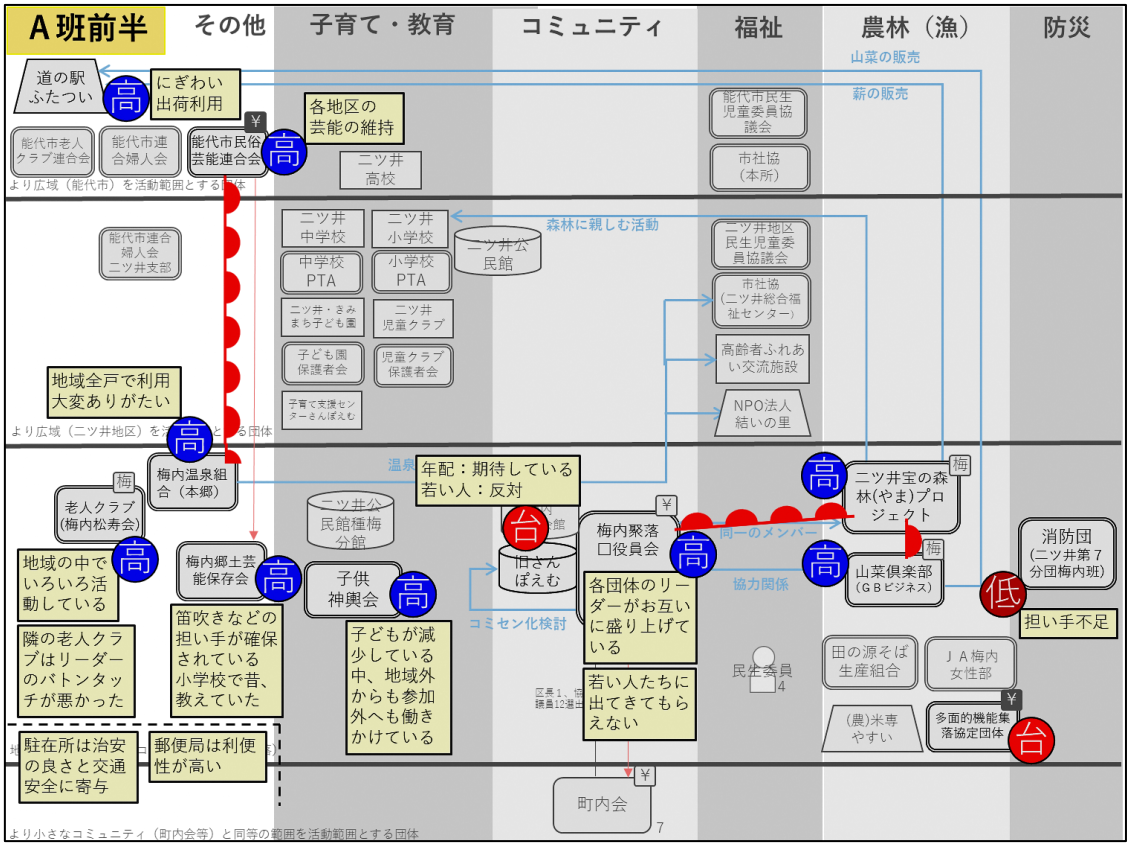
・一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所の藤山氏による当日の作業内容等の概要説明
・地元天気図ワークショップとして現状と定住促進に向けた地元天気図の作成と地域の定住促進策の検討（テーマ　30 代女性が定住するとしたら）
　前半は地域の現状や課題を確認するため、施設、組織等について強みや弱み、関係性を検討し現時点での地元天気図を作成
　後半は前半で確認した地元天気図にどのような要素が加われば、30 代女性が移住・定住しやすくなるのかを検討し将来展望を加味した地元天気図を作成

■当日の様子

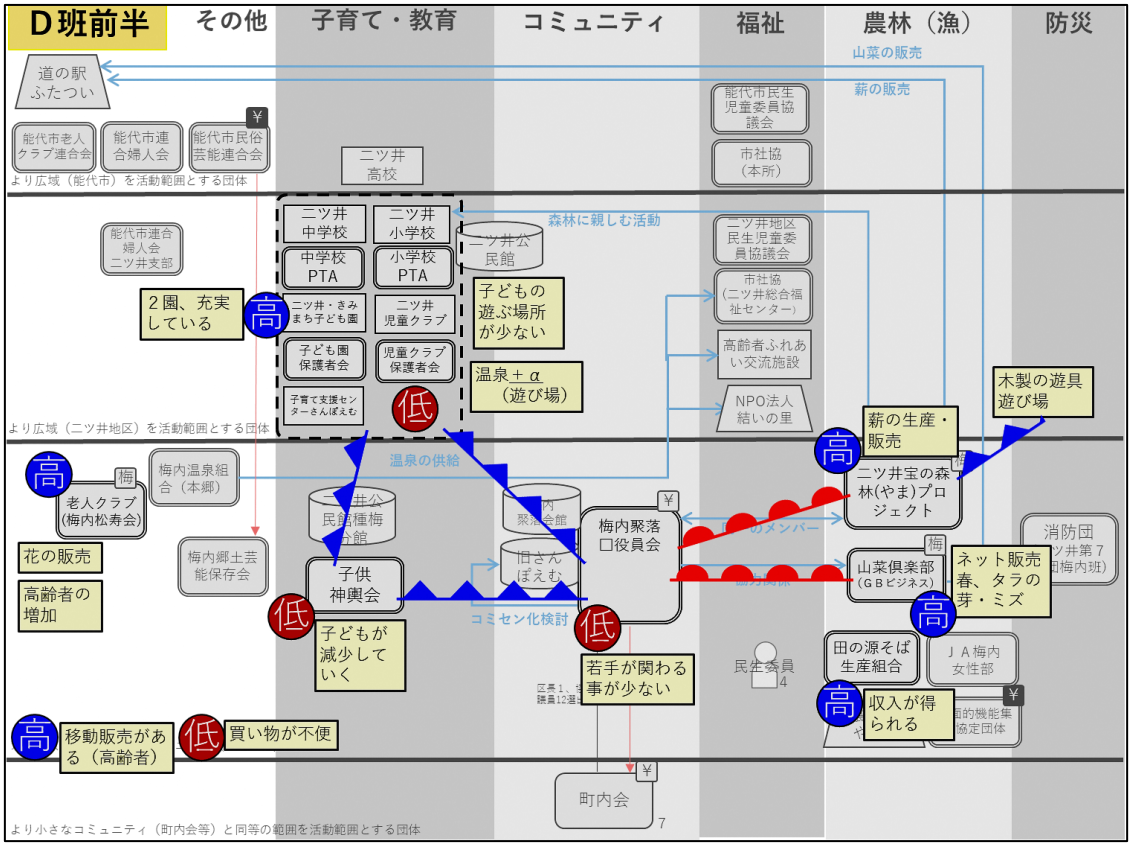
３）検討結果

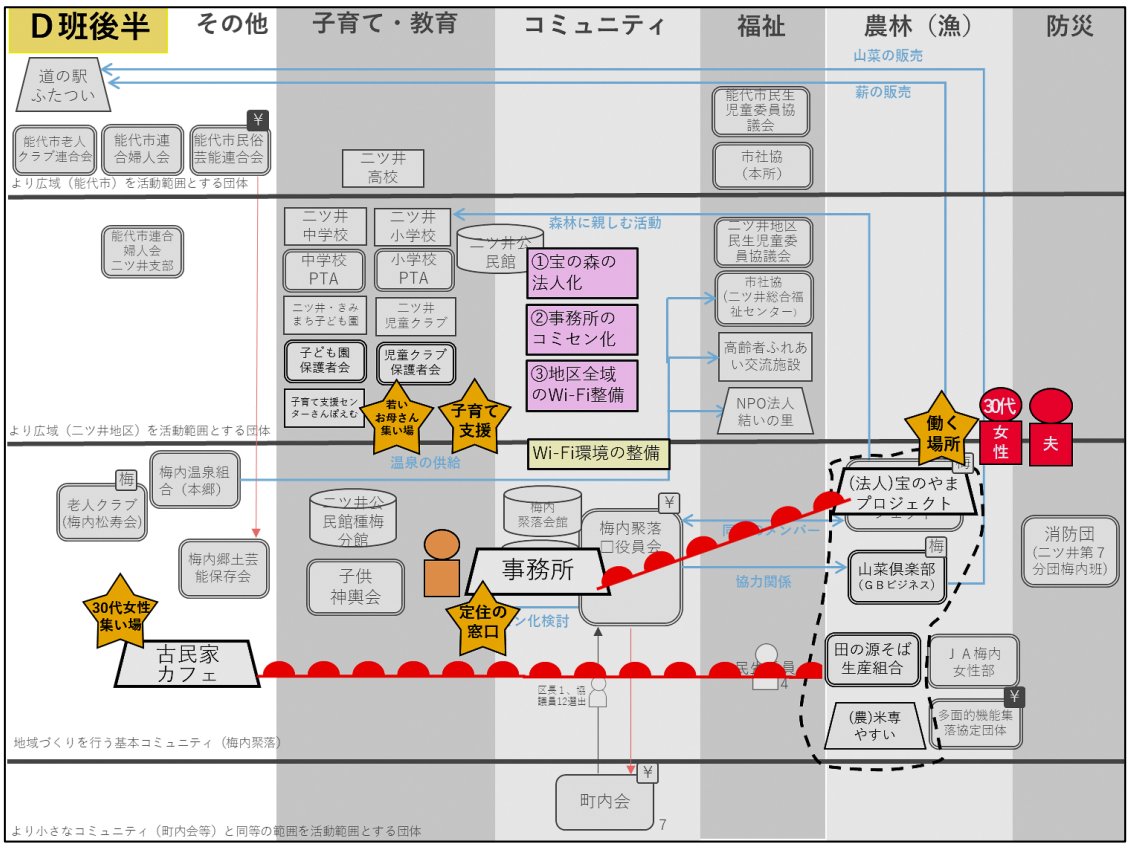
梅内地区では 4 班構成で作業が行われた。その中で例としてベテラン男性中心のＡ班と 30 代前後の若手の男性がメンバーの大半だったＤ班の検討結果を表示する（「④モデル地区（能代市梅内地区）の概要」に掲載した地元関係図と併せてご覧いただきたい）。

A 班の地元天気図（上前半・下後半）



D班の地元天気図（上前半・下後半）





4）まとめ

地元天気図を提示したA班、D班について概略を記載したい。

A班はベテラン男性が中心の班で前半の検討では人手不足を理由に消防団に低気圧マークを付けたが、概ね高評価のものばかりであった。自らが関係している老人クラブや芸能関係の組織に高評価が付いた他、梅内聚落と二ツ井宝の森林プロジェクト、山菜倶楽部は結びつきも強く高評価であった。特に梅内聚落には各団体のリーダーがお互いに盛り上げているとした一方で若い人たちに出てきてもらえないという危惧を抱いている。

後半では地区内の人材で空き家改修を行い梅内聚落が定住の窓口となり、その空き家を紹介するという仕組みを検討した。加えて梅内聚落に参画する若手人材の発掘と、旧能代市子育て支援センターさんぽえむを地区内の子育て支援の拠点として再整備する案を報告した。

D班は30代前後の若手男性が多い班で、前半の検討では子育てに関わる保育園の他に老人クラブ、二ツ井宝の森林プロジェクト、山菜倶楽部、田の源そば生産組合等の地区内で所得創出している組織や団体に高評価を付けた。低評価であったのは梅内聚落、子供神輿会、その他の子育てに関わる組織や団体であった。この組織間の関係性が弱いことも挙げており、特に梅内聚落に関しては自分達のような若手が関わっていないことも低評価の要因としている。

後半ではやはり梅内聚落の変革が必要と考え、定住の窓口として機能する常駐職員がいる事務所を構えられないかという提案がなされた。二ツ井宝の森林プロジェクトを法人化し経済部門の強化や、田の源そば生産組合と連携し古民家カフェをオープンし女性の集いの場をつくるともした。

掲載していないその他の班について簡単に記載する。前半では消防団や子ども、子育てに関する組織・団体が人員不足を理由に低い評価となっている。反面、老人クラブや二ツ井宝の森林プロジェクト、山菜倶楽部等、比較的ベテラン世代が多い組織は活動が地区内で周知されており高評価であった。後半ではベテラン男性中心の班では旧能代市子育て支援センターさんぽえむを温泉やカラオケ、加工所として集い稼ぐ場所とする案を、女性中心の班では加工・販売施設を新設し山菜倶楽部との連携を強化していく案と旧能代市子育て支援センターさんぽえむを子育て支援施設として再整備し他の班同様に温泉施設として住民の集いの場とする案等が検討された。

⑧ 能代市報告会の開催概要

１）目的

コミュニティ生活圏形成事業の概要と梅内地区での取組の成果を基に、手法や手応えを能代市全体に発信・共有する目的で行われた[2]。

２）開催概要

■日時/場所/参加者

・日時　2021 年 3 月 6 日（土）13：30－15：30
・場所　能代市二ツ井町庁舎
・参加　27 名

■次第

第一部　講演　一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩氏
2020 年代は田園回帰の時代
～能代市の地区別人口予測の概要と全国的な先進事例の紹介～

第二部　パネルディスカッション
コミュニティ生活圏の形成に向けて
～今こそ定住と暮らしの土俵をつくる！～

（1）梅内地区からの取組報告
報告者　梅内地区　齊藤 つま子氏
梅内地区　安井 賢太氏

（2）パネルディスカッション
テーマ１　次世代の定住増加の一番課題となっていること
テーマ２　次世代の定住増加に向けて一番力を入れたいこと
テーマ３　集落同士が連携し、子育て、福祉、農林分野等を地域ぐるみでつないでこんな仕組みをつくりたい
ま と め　今後に向けての抱負を漢字一文字で
コーディネーター　一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所
所長　藤山 浩氏
梅内地区　齊藤 つま子氏
梅内地区　安井 賢太氏
能代市地域おこし協力隊　八巻 枝美氏
能代市企画部市民活力推進課　小林 直樹氏

[2] 新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、予定されていた 1 月 23 日の開催を延期し 3 月 6 日に参加者数を制限した上で藤山氏らはリモートで参加いただくオンライン報告会を開催した。本報告会では Zoom ビデオコミュニケーションズより提供される web 会議サービス Zoom を使用した。

■当日の様子

３）内容紹介

本報告会では一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所所長藤山浩氏より本事業に関連して「2020 年代は田園回帰の時代」という演題で講演いただいた。その後、ワークショップ参加者に成果を発表いただいた。パネルディスカッションでは地元住民等、4 名の方々に登壇いただきテーマに対してキーワード方式で、その意味するところを説明いただく形式で執り行った。このパネルディスカッションの内容について抜粋し要約する。

テーマ１　次世代の定住増加の一番課題となっていること

安井氏キーワード　「仕事と子育て」

職場が近くになく、小学校も地区内にないという２つの課題が一番重要だと思っている。

テーマ２　次世代の定住増加に向けて一番力を入れたいこと

八巻氏キーワード　「稼げる街づくり」

都会での稼ぎと比較すると少なく職種を選べない。やはり稼げることが魅力になる。能代には稼ぐための可能性があるので成功例をつくって示していきたい。

小林氏キーワード　「若者と女性の活力」

高齢世代が元気なのは良いことだが若者がその元気に押されているので、若者を後押ししたい。また女性がいなければ人口減の問題は解決しないので女性にとって住み良い能代市にしていきたい。

テーマ３　集落同士が連携し、子育て、福祉、農林分野等を地域ぐるみでつないでこんな仕組みをつくりたい

齊藤氏キーワード　「体験参加」

農業体験をイベント的にするのではなく、体験希望者を地区内のネットワークを活かして柔軟に受け入れる仕組みが出来ないかと思っている。

安井氏キーワード　「梅内コミュニティーセンター」

旧さんぽえむを利活用し、空き家の紹介や若者の集いの場、野菜販売、交通支援、災害時の避難場所となるような施設にしたい。

まとめ　　今後に向けての抱負を漢字一文字で

小林氏キーワード　「続」

今回の取組は幅広い世代が参加され、とても充実していた。梅内地区でも能代市の他の地区でもこのような取組を続けていきたい。

⑨ まとめ（成果と委託機関による方向性の提示）

梅内地区にはすでに 7 自治会（11 集落）の連合組織として梅内聚落が存在し、各自治会を取りまとめるような活動をしている地区である。そのため住民の方々にはコミュニティ生活圏として梅内地区単位での活動は違和感のないものとして受け入れられると想定された。

人口分析からは 20 代前半女性が増加する等、明るいデータが示されたものの、全体的には若年層の人数は極端に少なく、予測される人口減少のスピードは相当早いものと推計された。また、ヒアリングからも中山間地域等直接支払制度の取組み断念等、担い手不足により撤退する動きもあると伺った。

ワークショップ（１回目）の検討からは通学・通勤のため便利なところに親子揃って転出するということも含め進学・就職に関わる減少要因が多数挙げられた。小中学校はスクールバスがあるものの、小学校が統廃合してから親子揃っての転出の動きは強まったとの見方をしている。裏を返せば地域に小中学校はなくとも、また高校への通学は大変であっても梅内地区に留まった方が良いと思える「何か」を見つけ、強みとしてアピールしていかなければならないということである。

ワークショップ（２回目）では梅内聚落が地区のまとめ役としてあるいは顔として移住の相談窓口を兼ね備えた組織（地域運営組織）に進化することが望まれていた。梅内聚落は住民から認められている組織であり、同じメンバーが二ツ井宝の森林プロジェクトで汗を流し、外貨獲得をしているということを住民の方々が評価しているからこその意見である。いずれは地域運営組織として事務所を確保し常駐職員がいるような組織に発展していただきたい。そのためには後述する旧能代市子育て支援センターさんぽえむの利活用も事務所としての利用も含む長期的な目標を持って進めていただきたい。地域運営組織は住民の強い思いと意識共有、常駐人材の人件費や事務所の維持費の確保、組織形態等、綿密な仕組みと市や関係機関からの支援がなければ実現出来ないが、常に頭の片隅に据え置いて取組んでいただきたい。

梅内地区の勘所は梅内聚落と森林資源の活用である。しかし、どちらの活動も担い手はベテラン世代となっている。気心の知れた仲間と機動力を持って物事に当たってきたことが成功要因であることは容易に推測出来るが、関わる活動を今後も継続させていくには、新たな（若い）担い手が必要不可欠である。移住相談等の今後求められる業務を付加していくのであれば尚更である。この点に関してはワークショップ参加者による梅内聚落への評価が興味深いものであった。若年層は自分達の年代の関わりが薄いことに不満を持ち、

ベテラン世代は若者が関わってくれないと不満を持っているのである。梅内地区におけるワークショップでは年配の住民と若手住民が気兼ねなく雑談している様子が頻繁に見られた。400 人規模の地区であるため、ほとんどが顔見知りの間柄であり、少なくとも誰それの父親、何々家の孫といった認識はあるものと見受けられた。これは小さい地区ならではの強みである。こうした関係性であるのだから梅内聚落への若者の参画は丁寧な説明と勧誘があれば、案外容易になされるのではないか。この点については報告会で登壇された安井氏はさらに踏み込んで、自分達 30～40 代がベテラン住民と 10～20 代の若手住民の間をつないでいく存在になりたいと頼もしく表明していた。ベテランのリーダー層と若手との交流促進は図られるべきで、こうした「薫陶」を受ける機会が若手へ与える影響は計り知れない。これは女性の山菜倶楽部にも言えることである。良い距離感で若手へ働きかけ世代を超えた融合を図るという対応は急ぐべきと考える。これからは世代、性別関係なく「ALL 梅内」で物事に当たっていくという考えを浸透させていただきたい。

旧能代市子育て支援センターさんぽえむの利活用にも多くの提案がなされた。市からの譲渡も含め、すでに動きが見られる取組なので住民の方々にとっては利活用の進捗が楽しみな出来事として認知されているようであった。天気図ワークショップでは地域運営組織の事務所として、子育て支援施設として、住民の交流の場として、加工施設として等、様々な提案がされており、これらは一考に値するものと思われる。特に地域運営組織の事務所としてという視点や子育て支援施設という視点については流出防止といずれは呼び込みの目玉になるような工夫や仕掛けを取り入れるためにも若年層の意見にも耳を傾け、慎重に行動いただきたい。

いずれにせよ住民側の思いだけでは前に進まないことが多いので、市からも関与を継続し住民間の意見交換機会等を設け、相談を重ねていただきたい。地区住民の皆様には自分達の構想は持続可能であるか、身の丈に合っているか、それでいて「これぞ梅内！」というキラリと光る強みがあるかを念頭に置き、その上で利用可能な支援をフル活用しこれまでのように楽しみながら取組を進めていただきたい。